



愛媛県立医療技術大学広報誌

# 砥礪<sup>しれい</sup>

May  
2023

vol.19

## Contents

- 学長からのメッセージ ..... 2
- 学部長／研究科長挨拶 ..... 3
- EPU卒業生の声 ..... 4
- 学部生による講義・実習紹介 ..... 8
- 愛媛県臨床検査技師会との連携活動 ..... 12
- 令和4年度新任教員紹介 ..... 14
- 地域交流センター事業 ..... 15
- 大学の風景 ..... 16
- 大学院の風景 ..... 17
- 図書館紹介 ..... 18
- インフォメーション  
図書館利用案内・学年暦・編集後記 ..... 20

# コロナ禍での 大学教育の在り方

新型コロナウイルス感染症パンデミックも3年経過しましたが、この間でこのウイルス感染症に対する意識や対応も大きく様変わりしてきた感があります。2019年末に中国武漢市で初めて確認された新型コロナウイルス感染症は瞬く間に世界中に拡散しました。パンデミック発生当初の2020年頃は感染者数こそ少ないものの、このウイルスに関する知識がまだ十分でなく、不安と恐怖の中で生活していた人も多かったことと思います。学生諸君にも自宅学習を強いることになり、若い時の人格形成において最も重要な友人間のコミュニケーションを分断せざるを得なかったことは今でも残念で申し訳なく思っています。その後、驚異的なスピードでワクチンが開発され、また感染者の増加によって集団免疫の獲得も次第に進み、重症化率や致死率は大きく低下しましたが、相次ぐ変異株の出現によって感染者数は増加の一途を辿り現在に至っています。

ウイルスの生物学的特性で、細菌や真菌(カビ)などの他の病原体と大きく異なる点は細胞内でのみ増殖することができ、体外では不活化(死滅)してしまうことです。つまり、ウイルスは子孫を残し繁栄を目論むために常に我々の体内に侵入してこようとしています。特に、ありふれた風邪のウイルスであるコロナウイルスは、天然痘(痘瘡)ウイルスのようにこの世から撲滅することは到底不可能であると考えざるを得ません。新型コロナウイルス感染の蔓延防止策として、当初社会・経済活動は大きく制限されました。しかし、行動変容を強いるのみではこのウイルスに打ち勝つことは不可能であることを私たちは知りました。幸い、ワクチン接種の普及や集団免疫の獲得などで若者の重症化は防ぐことができるようになり、このような変化に合わせて、本学の基本的教育方針もウィズコロナに大きく舵を切りました。できる限り授業は本来の対面で行い、また臨地実習も可能な限り実施するようにしています。勿論、基本的感染対策を遵守することが大前提であることは申すまでもありません。本学も、学生諸君を感染から守ることを最優先し、様々な対策を講じており、幸い学内での感染は防ぐことができている。これからも当分このウイルスと付き合ってゆく必要があると思いますが、学生間のコミュニケーションを維持しつつ、教育効果を低下させないコロナ禍での大学教育の在り方を模索することが続くものと思っています。皆様には引き続き暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



学長 安川 正貴  
Masaki Yasukawa

# 大学教員の学会活動について

－日本看護研究学会第48回学術集会を開催して－

大学教員の業務は教育・研究・大学運営・地域貢献の4本柱とされていますが、なかでも教育・研究が中心です。大学は人材育成の場であるとともに、知識や技術を生み出す拠点であり、教員はこのための研究活動や研鑽に時間と労力を注いでいます。そして、研究成果の発表や意見交換、専門分野に関する情報収集等の機会として各地で開催される学術集会への参加を積極的に行っています。しかし、ここ3年はコロナ禍にあり、学術集会もWeb開催やオンライン開催と方法の変更を余儀なくされてきました。

このような背景のなか、私は、日本看護研究学会第48回の学術集会長を拝命し、主催者として2022年8月27日・28日にハイブリッド形式で学会を開催いたしました。学術集会のプログラムには、子規記念博物館総館長の竹田美喜先生による「子規・病牀六尺の世界とチーム・ケア」と題する特別講演や県立三島高等学校書道部による書道パフォーマンス等、地元愛媛をPRする企画も盛り込み好評を博しました。道後温泉の他にも愛媛を知っていただくことに貢献できたのではないかと思います。

日本看護研究学会は48回という数字が示すごとく、国内の看護系学会としては最も歴史がある分野総合の学会で、会員総数は約5500名を超えます。本学の教員にも多くの会員がいます。今回の学術集会では会員に限らず大学院生・修了生を含め、大学を挙げて開催に協力していただきました。また、県内の他の看護系教育機関や医療機関からも多くの方にご支援・ご協力いただき、コロナ禍においても無事、オール愛媛で学術集会を成功できたことを誇りに思います。このような全国レベルの学術集会の企画・運営を経験することは、先述した本務以外に多くの時間と労力を使い負担にもなりますが、一方で、大学の知名度を上げるとともに組織の一体感を醸成し、また、教員個々の成長にもつながる貴重な経験となりました。

この場を借りまして、ご協力くださいました関係各位に改めて深謝申し上げます。



学部長  
研究科長 中西 純子  
Junko Nakanishi



# E P U 卒業生の声

## 周りの人に支えられて続ける保健師の仕事 ～住民に“予防”の大切さを伝えるために～

宇和島市役所 保険健康課

薬師寺 由季

Yuki Yakushiji

私が愛媛県立医療技術大学に進学を希望した理由は、将来地元で保健師として働きたいという思いがあったからです。幼少期から看護職に興味を持ち、小学生の頃の祖父の病気を機に看護職を目指すことにした私が保健師という仕事を知ったのは高校生の時でした。病気になった人を支えるだけでなく、健康な人に関わる“予防”の仕事に魅力を感じ、保健師を目指しました。

大学進学後は同じ看護職を目指す仲間と楽しい4年間を過ごしました。実習や試験、卒業論文、就職

活動など忙しい毎日でしたが、苦しい時期を共に乗り越えた仲間の存在は今も心の支えとなっています。特に3年生と4年生の保健師実習では、家庭訪問や健康教育など実際の保健師の仕事に触れ、改めて地域の住民と関わる保健師になろうと決めました。

しかし、卒業直後の私は保健師として働く夢は叶わず、看護師として急性期病院で働く道を選びました。配属された病棟で目にしたのは40代50代の若い方が心筋梗塞や狭心症で運ばれてくる姿、ご高齢の方が何度も入退院を繰り返しながら心不全を悪



特定健診結果を持参して住民宅を訪問している場面。住民と一緒に結果を確認し、生活の様子を伺います。自宅でお話することで住民の普段の生活が見えます。



令和2年7月豪雨災害時に、愛媛県チームとして8/3～8/10熊本県へ応援派遣に行きました。避難所の職員に対して感染症対策に関する健康教育を実施している場面。

化させ、苦しそうに亡くなっていく姿でした。治療をして元気に退院されていく患者さんを見ると看護師としてのやりがいを感じる反面、病院に来るまでに何かできることはなかったのだろうかという思いが、“予防”に携わる仕事への思いを強くしました。社会人1年目から指導頂いた職場を離れることに迷いはありましたが、温かく送り出して下さった職場の皆さんのおかげで卒後3年目の春、私は保健師として新たなスタートを切りました。

保健師になり今年で7年目ですが、通常業務に加え、近年は災害やコロナ対応などイレギュラーな仕事も増え、戸惑いの連続です。悩みながらその時の自分の最大限の力で関わらせて頂いたつもりでも「もっと何かできたのではないか。」と自問自答することもあります。自分に経験がないことに助言を求められた時には、力不足を痛感しますが、過去に関わらせて頂いた住民の方々からヒントを頂き、少しでも信頼される保健師になるために奮闘しています。

後輩も増え、中堅保健師となってきた今、やらないといけないこととやりたいことの狭間で悩むことも増えてきました。しかし、住民に自分の体を大切



担当地区の子育てサロンにて、お子さんの身体計測を実施している場面。地区のお母さん方の集いの場に出向いて相談や教育をさせてもらっています。

だと思って貰うための“予防活動”は地道に続けていきたいと思っています。以前、健診結果から早急な医療機関受診が必要となり、訪問にて結果説明をさせて頂いた住民から後日、「あなたのおかげで命拾いましたよ。」と言われた言葉は、私が目指した“予防”に携わる保健師という仕事の原点を思い出させてくれました。

効果が見えにくい保健活動は、うまくいくことばかりではないですが、同じ目標をもった職場の仲間が存在がモチベーションを助け、前に進む力をくれます。これからも自分の目指した保健師の原点を忘れず、周りの人達に感謝をしながら楽しく保健師を続けていきたいです。

#### Profile

2014年4月、市立宇和島病院入局。7東病棟にて看護師として勤務。

2016年4月、宇和島市役所入職。保健師として保険健康課母子保健係、2018年4月～津島支所健康推進係、2019年4月～保険健康課成人保健係勤務。



保険健康課の皆さんとの一枚。市民の健康づくりのために日々協力して保健活動に取り組んでいます。ここ数年は個人へのハイリスクアプローチだけでなく、市民全体へのポピュレーションアプローチにも力を入れています。

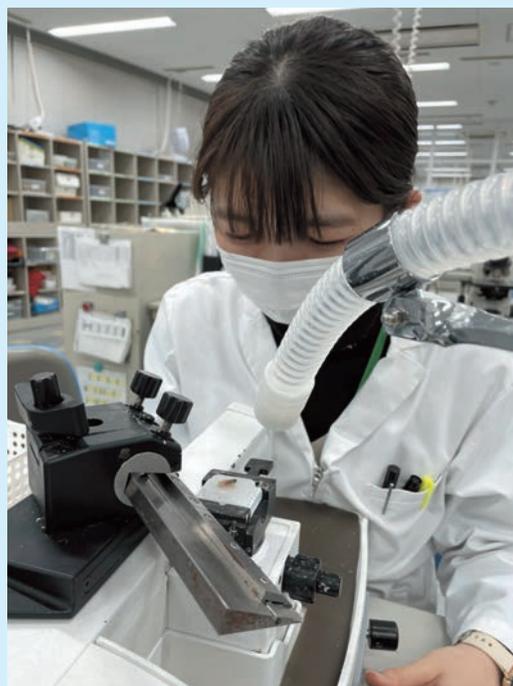
## 検査センターに就職して ～日々勉強中です！～

ファルコバイオシステムズ 総合研究所 病理部 吉岡 愛加  
Manaka Yoshioka

私は地元の県立高校を卒業後、夢であった臨床検査技師になるために、同じく地元の愛媛県立医療技術大学保健科学部臨床検査学科に入学しました。1年生の時は看護学科との共同授業で、医療の基礎を学んだほか、選択科目では興味があった心理学や文学を学ぶことができました。2年生からは専門科目が増え、より専門的な知識を得られるようになりました。3年生からは実践的な学内実習が増え、実際に病院で臨地実習生として業務に携わる経験をしました。忙しい日々でしたが、臨床検査技師として働く自分を想像しながら、同級生達と励まし合い学びました。4年生の夏から本格的に取り組み始めた

就職活動では、病理検査に関心があり、相談に乗ってくださった先生方の勧めもあって、検体数が多く経験が積める検査センターへの就職を希望しました。

現在は京都に本社がある株式会社ファルコバイオシステムズに入社し、総合研究所病理部に所属しています。弊社では、4月から8月にかけて地域ラボや営業も含めた社内の全部署を1週間ごとに移動する研修があり、その後、自部署に戻ります。本格的に病理部の業務に携わるようになってまだ4カ月弱ですが、今は、先輩方からご指導を頂きながら切り出し、包埋、薄切といった技術を、少しずつ身につけているところです。また、検査センターならではの



病理標本作製の様子。  
患者様の検体を取り扱うため、慎重に行います。

の検体受付や病理医への診断委託発送業務なども行っています。通常1日の受付が300検体前後、繁忙期だと500検体を超えることもあります。毎日とても目まぐるしい日々ですが、その分多くの検体に触れられ、知識や経験が蓄積できることを嬉しく感じています。最近では、大きな目標として細胞検査士の資格取得を掲げ、合格に向けて勉強を始めました。同期と切磋琢磨しつつ、できることを少しずつ増やしていっています。また、新型コロナウイルス感染者数の増加によって、遺伝子検査部への依頼も増加しました。期間は3カ月ほどではありましたが、病理部と並行して遺伝子検査部の行う検査の前処理にも携わることができました。自分の専門だけでなく、多様な知識と技術を持った臨床検査技師が求められている時代であることをより実感しました。

休日は、趣味であるカメラを片手にもつぱら観光地京都を散策しています。好きなアート関連の場所や、四季に合わせて自然豊かで有名な寺社仏閣を訪ねたりしていますが、まだまだ行きたいところは尽きません。この休日を楽しみに日々を乗り越えてい



休日は、趣味のカメラを持って。

ます。

最後に、まだまだ社会人としても臨床検査技師としても未熟者ですが、フレッシュさを活かして分からないことは周りの先輩たちに聞き、どんどん自分から新たな分野にチャレンジしてステップアップしていきたいと思っています。後輩の皆さんも、叶えたい未来へ向かって、学生生活を謳歌して頑張ってください。

#### Profile

2018.3 愛媛県立松山東高等学校 卒業

2018.4~2022.3 愛媛県立医療技術大学保健科学部臨床検査学科

2022.4~ 株式会社ファルコバイオシステムズ  
入社 総合研究所病理部にて勤務



職場がある京都を中心に、写真におさめています。

# 学部生による講義・実習紹介

## 看護学科の技術演習について

看護学科では、学内で行う技術の学習を「演習」と呼びます。本学の演習の特徴を学生に説明してもらいました。

バイタルサイン測定、診療援助技術、洗髪や足浴など、学生同士で実施する演習がたくさんあります。学生同士で、より良い方法について話し合う機会が多く設けられており、技術を習得しやすいと思います。授業時間外にも、一緒に何度も練習を行うことができる環境があるため、技術を習得しやすく、実技テスト対策にも有効だと感じています。

シミュレーション演習やグループワークが多く取り入れてあり、学生同士で意見交換を行うことで考えを深め合います。例えばこんな感じです。

- 看護師役と患者役に分かれて演習を行う。
- 患者役は、設定された情報を基に演じて行う（例 右麻痺なら右手は使えないようにする等）。
- 看護師役は、当該疾患だけではなく、元々患者がもつ疾患に対しても配慮しながら演習を行う。
- 4人グループで行い、看護師役、補助看護師役、評価者役、患者役に分かれて、順番に交代しながら、いろいろな立場からアセスメントする。
- 演習が終わってから、グループで話し合い、自分ができたこと、できなかったこと、難しかったことについて話し合い、まとめる。

臨地実習では、多くの場合実際に患者さんを受け持ち、その患者さんの疾患を理解し、アセスメントを行い、計画を立てていきます。学内演習で、根拠に基づいた看護の実践や学びを充実させる方法がとられているので、臨地実習にも繋げることができると感じています。

「動く」ことに対する、患者の機能を取り戻す援助技術の演習は特徴的です。実際の医療・介護の現場で用いられている多種多様な福祉用具（移乗用リフトや様々な種類のマットレスなど）を体験しながら学んでいきます。患者の身体機能の回復・向上を支えていくため大切なのは、その人が安心・安全に日常生活行動を行える環境を看護師が提供できることで、それは特定の時間の訓練以上に有効なことも

知りました。さらにこの演習では、看護師である介助する側の身体的な負担を軽減する重要性を学びました。看護職としてセルフケアを行いながら患者に技術を提供できる、つまり双方に同時に利益がもたらされる手段があるのは素晴らしいと感じました。

### 1年 生活援助技術論Ⅱ（活動・休息援助技術）



「足浴」の一コマです！  
患者・看護師役になり心地の良い温度や洗い方を悩みながら実践しています！

## 1年 生活援助技術論 I



リフト移乗の体験中です！

日本では普及が遅れていますが、海外では「水道」並に不可欠なインフラなので、リフトがいかに「楽♪」であるかを体験することは、普及の第一歩と考えています。



様々なマットレスの種類の特徴を知り、評価しています。マットレスの上で、患者は大半の時間を過ごしているのが現状です。マットレスが患者に与える影響をアセスメントし、対策するための体験です。



浅く、滑った座位姿勢が招く弊害を学び、しっかり深く座る介助方法を体験しています。

滑るシートを坐骨下に敷く方法は、介助する側は楽ですし、される側は足を踏ん張り、バランスをとるので、自立に導くことになります。



ポジショニングピローを使う演習では、体圧を分散するだけでなく、骨格を支えることがリラクセスに必要なことを実感します。

## 2年 診療援助技術論 (検査時の援助技術)



点滴や採血など看護師に必須の技術です！はじめは針を持つことにドキドキしていたのですが、だんだんコツをつかんできました(^ ^)

## 臨床検査学科の学内実習について

### 2年 「臨床検査総論実習」

臨床検査総論実習では、一般検査に含まれる検査法の原理を学びます。一般検査とは、尿や糞便に含まれる成分の量や種類を分析する検査で、みなさんも一度は健診や病院などで受けたことがある検査だと思います。尿や糞便は、検体を採取する際に患者さんに痛みを与えず、簡単に採取できるので健康診断やスクリーニング検査として用いられています。

臨床検査総論実習では、主に尿検体の比重や沈渣成分の鏡検、糖の測定、鼻咽頭液の採取や採血などの実習項目を6人の班員で分担して行いました。試験紙法や他の測定方法など、それぞれの特徴や違いを理解しながら、病院で実際に使われていた自動分析装置なども使用して、測定方法を学びました。



尿検査の自動分析装置も学内にあります！



自動分析装置のメカニズムも勉強します。



シミュレーターを使って、採血の練習をします。学年が上がると、学生同士での採血があるので、練習を重ねます。



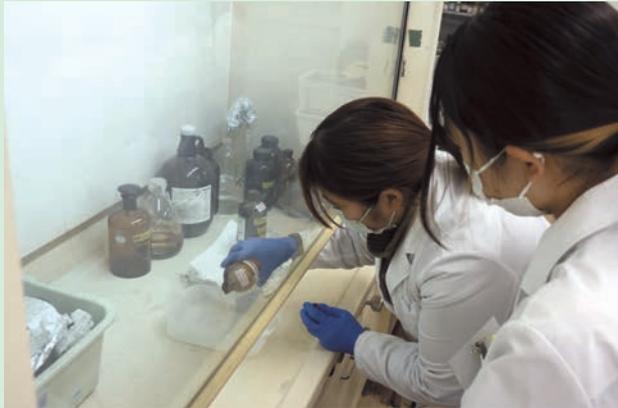
咽頭ぬぐい液採取の練習の様子。

### 3年 「遺伝子検査学実習」

遺伝子検査学実習では、遺伝子から分かる様々な情報を検査するために必要な技術を学んでいます。遺伝子検査は、微量のDNAを扱うため、精巧な手技が求められます。写真では、自分のDNAを採取して血液型やアルコールの耐性を調べる検査を行っています。綿棒で口腔粘膜の細胞を採取し、自分たちでDNAの分離、抽出まで行います。抽出した僅かなDNAをPCRで増幅し「電気泳動」という方法を使って遺伝子情報を解析します。



マイクロピペットを使って、極めて微量な試薬を分注している様子。



実習では、取り扱いに注意が必要な試薬も使用するため、慎重に作業を行います。



電気泳動に用いるゲルを専用の装置にセットしている様子。

### 3年 「微生物学実習」

微生物は細菌やウイルス、真菌などの総称です。特に微生物学実習では細菌を培養したり、培養した細菌の特徴を調べたりして、その細菌が何であるかを決定します。まず、細菌の培養では発育に必要な栄養素などが含まれた寒天培地に菌を塗抹して増殖

させます。次に、染色結果や発育の特徴によって、細菌の属や種を決定します。この検査は病院でも使われており、疾患の原因となる細菌や病院内で問題となる薬剤耐性菌の検出に役立っています。



細菌を塗るための白金耳をガスバーナーの炎で滅菌している様子。



綺麗に細菌を塗らないと細菌がうまく培養されないの、丁寧に塗っていきます。



培地に細菌を塗ります。



実習室の様子。グループで相談しながら、実習を進めています！

## 愛媛県臨床検査技師会との連携活動



2022年8月、一般社団法人愛媛県臨床検査技師会と包括連携協定を締結いたしました。

県内唯一の臨床検査技師の養成機関であるEPUと、愛媛県臨床検査技師会の交流がより密接となり、教育現場と臨床現場との相互交流を活性化することが可能となりました。

連携活動の一環として、学生と教員が技師会のイベントに参加しました。その様子を学生が紹介します！

### 健康フェスタ2022「検査と健康展」

エミフルMASAKI 2022.9.24-25

「健康フェスタ」のスタッフとして2日間参加させて頂きました。私たちは骨密度検査や簡易ヘモグロビン検査を実際に行いました。簡易ヘモグロビン検査は、中指を使って簡単にヘモグロビン濃度を測るといったものです。初めて扱う装置だったため、準備の段階で、自分自身で測定してコツをつかみ、来場者にもそのコツを伝えながら取り組みました。また、結果が正常かどうか、イラストなどを用いて、来場者の方にわかりやすいように工夫しました。骨密度検査では、幅広い年齢層の方に対して検査を実施し、その意義や結果を説明しました。一人ひとりに説明する際には、年齢に合わせて話すスピードや声の大きさ、語彙の使い分けといった話し方を工夫することの重要性を実感し、就職後にもそれを意識して実践していきたいと感じました。



「検査と健康展 医技大生と話そう！」ブースに参加しました。たくさんの南予地区の中高生に参加していただき、学生生活や入試形態について学生目線での説明をすることができました。高校生に対して、在校生として医技大の良さをアピールする機会はなかなかないため、貴重な経験となり、充実した時間を過ごすことができました。中高生の熱心な姿を見て、私たちも残りの学生生活、そして卒業後も臨床検査技師として頑張りたいと改めて感じました。



松山市小中学校PTA連合会／公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団主催の「キッズジョブまつやま」にボランティアとして参加させていただきました。イベント会場では、子どもたちに腹部エコーや心エコーに加え、顕微鏡で赤血球や白血球などを見る体験をしてもらいました。受付と誘導が主な役割でしたが、子どもたちに心臓の構造やエコー画像の見方を教えることもさせていただきました。心臓の構造を知らない子どもたちにも分かるように、心臓の図とエコー画像を見せながら説明するのは難しかったですが、貴重な体験になりました。また、実際に心エコーの画像を出しながら説明することで、私たちも実習で学んだことを活かすことができ、さらに、技師の方が助言をくださったため私たちの勉強にもなりました。

今回の活動で、大学ではできない体験をすることができました。また、病院で働いていらっしゃる技師さんの話を聞くこともでき、将来就職するにあたってとても参考になりました。

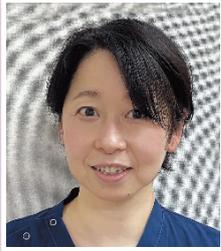


## 令和4年度 新任教員紹介

看護学科

北川 恵 講師 **基礎看護学講座**

Megumi Kitagawa



昨年4月1日付で基礎看護学講座に着任いたしました北川恵と申します。本学の前身である愛媛県立医療技術短期大学を卒業後、病棟看護師、養護教諭、訪問看護師を経験いたしました。臨床現場で看護師として働いていく中で、患者さんの食べることや痩せていくことへの苦悩に対応する機会が多くあり、まずNST専門療法士・臨床代謝栄養療法士の資格を取得し、看護師としての栄養ケアを実践してきました。次に、患者さんとの食事のやり取りをきっかけに、現場の看護師として勤務しながら研究に取り組んできました。そして日々の現場での看護師経験をもとに、学部基礎教育からの食事および栄養教育の充実が必要であると次第に考えるようになりました。

22年ぶりに神戸から地元愛媛に戻り、13年ぶりに教員に戻り、久しぶりの教育現場で学生さんたちの瑞々しい感性を感じています。今後は、現場で培った経験や技術を、教育及び研究に活かせるように尽力したいと考えています。

看護学科

瀬戸 裕一 助教 **地域・精神看護学講座**

Yuichi Seto



令和4年4月1日に本学に着任した瀬戸裕一です。11年間、愛媛県の保健師をしていました。業務は感染症対策、看護行政、国体、医療保険、健康づくり、精神保健と経験しましたが、特に、保健所での学生実習指導、医療対策課での保健師人材育成、健康増進課での健康課題解決のために関係機関と協働したビッグデータを活用した健康づくり事業が印象に残っており、ご縁あって本学に着任する運びになりました。

看護学科3年次後期の地域看護学実習では、地域に出向き住民の生活や思いを知り健康を衛る保健師や関係者の役割や機能を学生とともに学んでいます。

研究では、新任期保健師活動の優先度判断をテーマとして、中堅層不在の職場で判断を求められる新任期保健師への支援を考えています。

学生への支援や研究での成果を通じて少しでも地域貢献したいと考えています。

保健師はCOVID-19の患者調査や搬送調整など時代の要請に求められて業務が複雑多岐にわたります。皆さんと一緒に地域看護、公衆衛生看護について学習できることを楽しみにしています。

臨床検査学科

藤井 萌 助教 **基礎検査学講座**

Moe Fujii



令和4年4月1日付けで臨床検査学科基礎検査学講座に着任いたしました藤井萌と申します。鳥取大学医学部保健学科検査技術科学専攻を卒業後、地元である岡山大学大学院保健学研究科で修士号を取得しました。修士時代は「非アルコール性脂肪肝炎 (NASH)」について研究を行いました。本学では微生物検査学の助教として着任し、新たなことを学べる機会に感謝しながら勉強に励む日々です。現在は博士号取得に向けて動き出しています。

教員としても研究者としてもまだまだ未熟ですが、私は大学時代の恩師の言葉を目指しています。「臨床検査技師は検査のスペシャリストでなければならない。検査のことに関しては誰よりも知識を持った検査のプロ。皆は検査のスペシャリストになってください」

いまだ新型コロナウイルスが猛威を振るう中、臨床検査技師に求められる検査スキルはさらに高度になることが予想されます。医療現場あるいは研究分野など様々な場で活躍できる検査のスペシャリストの教育に、微力ながら貢献できるよう精進いたします。よろしくお願いいたします。

# 地域に開かれた大学づくり 地域交流センター (EPU-Local Community Center) 事業

地域交流センターは、2004（平成16）年の開学以来、地域と大学を結びつける活動を継続しています。このような活動は、県内の保健・医療・福祉の質向上を通して、県民や地域住民の健康の維持・増進に貢献することを目指しています。実際には、下表に示した4つの機能を発揮するために、様々な事業を展開しています。

機 能		事 業 名
人材育成	専門職	ホームカミングデー
		看護実践セミナー／臨床検査技師実践セミナー
		思春期保健スキルアップセミナー
		妊娠期から子育て期の切れ目のない支援に係る研修会
	一般・学生	えひめ高校生生体機能研究プログラム 他
		県内高校への出張講座／メディカルトーク
		学生ボランティア登録
調査研究		卒業生・修了生支援のための研究 他
相談支援		臨床看護研究相談室／自主研究会・研修会の支援
情報発信		ホームページ・広報誌への発信／活動報告書の発刊
		地域貢献グッズの貸し出し 他

## 令和4年度活動実績

### 看護実践セミナー

#### （愛媛県看護教員継続教育研修Ⅰ）

県内の看護師等養成機関の教員を対象に折尾愛真高等学校の高橋聖子先生を招き「アイデア勝負！オンリーワンのシミュレーション教育」を実施しました。



### 麻生小学校「校区探検」への協力

小学2年生を対象に施設見学を実施し、看護学科の実習室では赤ちゃん抱っこ体験、臨床検査学科の実習室ではオレンジジュースのDNAの観察を行い、本学学生との交流を深めました。



# 大学の風景

## オープンキャンパス

8月16～18日、10月22～23日の5日間、オープンキャンパスを開催しました。新型コロナウイルス感染対策のため、来学者を県内在住者に限定し、少人数での開催となりましたが、定員人数いっぱいの高校生や保護者の方に参加していただきました。大学紹介のほか、キャンパスツアーや在学生への質問、入試相談などの企画も実施しました。



在学生への質問タイム

## 助産学専攻科オープンキャンパス



昨年度は、COVID-19の影響によりオンラインのみでの開催でしたが、今年度は、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催することができました。当日は多くの方が参加され、教員や専攻科学生からの学内講義や実習に関する説明に、熱心に耳を傾けていました。その後、オンライン中継を併用した助産学実習室見学ツアーが行われ、参加アンケートでは、「助産師になりたい気持ちが強くなった」との声が寄せられました。

## EPU Festival 2022

10月22日に、学生祭EPU Festivalを開催しました。学生祭をきっかけに、「少しでも多くの方との繋がりを作りたい」、「いままでの縁も新しい縁も大切にしてほしい」という願いを込め、テーマを「縁(ゆかり)」に決定し、学生祭実行委員の学生を中心に実施しました。クラスやサークルでの出店も行い、学生生活の思い出の一つになったと思います。



ステージイベントの様子

# 大学院の風景

## 大学院オープンキャンパス(医療技術科学専攻)

2022年12月17日に、今年度も医療技術科学専攻を対象とした大学院オープンキャンパスを開催しました。教員と院生が、研究内容を紹介するポスターを掲示し、大学院で学ぶことや資格取得のサポートについて紹介しました。臨床検査学科の1～3年生が参加しましたが、進学を検討したり、自分自身の進路について考えたりするよい機会になったようです。



## 修士学位論文発表会

2023年1月28日に、修了予定者の大学院生9名(看護学専攻6名、医療技術科学専攻3名)の修士学位論文発表会が行われました。大学院生は、各分野の研究テーマについて、研究調査してきたことを発表し、教員からの質疑に応答しました。大学院研究の集大成となる発表を前に、落ち着かない様子も見うけられましたが、発表終了後は緊張から解放され安堵した様子でした。



# 図書館紹介

専門員（図書館司書） 泉 浩  
Hiroshi Izumi

2022年4月より図書館の開館時間を9:00から8:40へと20分前倒しました。この変更により1限目授業前に図書館を利用できるようになりました。さらに土曜日の閉館時間を17:00から17:30へと30分伸ばし、土曜日に授業のある大学院生の方が利用しやすくなりました。

今年のトピックとして電子ブックを初めて導入しました。当初は31冊と少ない冊数ですが、電子ブックならではのメリットを生かし利用状況を見ながら今後増やしていく予定です。電子ブックは自宅や実習先でも利用できますので大変便利です。

コロナ禍で停滞していた様々な活動も徐々に再開し、特に学生で組織する図書館サポーターによる活動はコロナ前の水準にまで戻りました。図書館サポーターの活動として「ブックハンティング」「本の福袋」を2年ぶりに実施したほか、図書館サポーター企画によるガラスケース展示「妖怪・まじないと医療展」を初めて開催しました。

学外の方も図書館を利用できますのでお気軽にお越しください。展示の企画展も随時行っていますので、見に来てください。



図書館サポーターによるブックハンティング



展示「フィリピン・カリンガ族の“癒し”」



展示「宮本常一、愛媛をあるく」



本の福袋



展示「使ってみよう電子ブック」

## 図書館 職員紹介



皆様、はじめまして。

2021年4月より図書館で勤務をしている門多大(かどた だい)と申します。

図書館のカウンターで学生さんや学外者の方、教職員の方々に本の貸出・返却や本に関する相談(レファレンス)、他大学などへの文献取り寄せ依頼(学生さんや教員向けに)を主に業務として携わっております。

カウンターそばには車いすが置いてあると思います。

(通られる際にご迷惑をお掛けいたしております。)これは私が移動する際に使っているものです。

私自身、生まれた時に1385gしかない低出生体重児で生まれ、歩行障がい(体の緊張などもあります。)や精神障がいがあります。

幼少期、入退院を繰り返し、そのたびに看護師さんにサポートしていただきながら病気と向き合うことが出来ました。

私の成長の過程には、医師(新生児科の先生など)や看護師さん、大勢の医療従事者の方々が関わっていただき、ここまで成長し、今に至るのだと思います。

改めて関わっていただいた医療従事者の皆様に厚く御礼申し上げます。

愛媛県内随一の医療従事者の養成を行っている大学に入職し、図書館職員として皆さんの学習や研究のサポートが少しずつ出来ていると考えると感慨深いものを感じます。

そして、これからも多くの医療従事者を輩出し、医療の一端を担う人間としてこれからも業務にまい進してまいります。

私から学生のみなさんに言えることは、明るく、地域の人々に寄り添える医療従事者になって欲しい、ただそれだけです。

このような職員がいるのだと心の片隅にとどめていただければと思います。

それでは、図書館でお待ちしております。

# Information

【インフォメーション】

## 図書館利用案内 《学外の方の利用案内》



**利用時間** 平日/8:40~21:00 土曜日/8:40~17:30

**図書借出** 借出冊数と期間は、5冊2週間です。

**資料宅配サービス** 送料をご負担いただきご自宅に希望の資料をお送りします。

**電子リソース** データベース、電子ジャーナル、電子ブックを利用できます（一部利用できないものあり）。  
1枚10円でプリントアウトも可能です。

【利用可能な電子リソース（一部）】

- 医央誌Web
- 最新看護索引Web
- メディカルオンライン
- 国立国会図書館デジタルコレクション
- SCIENCE
- MEDLINE with Fulltext
- CINAHL with Fulltext
- Maruzen eBOOK Library

**公衆無線LAN** 持ち込み用PCやタブレットでインターネットに接続できます。

**S N S** 図書館facebook <https://www.facebook.com/EhimePULib/>

図書館Twitter <https://twitter.com/EhimePULib>

## 令和5年度 学年暦（予定）

- 春季休業日 ..... ~ 3月31日
- ガイダンス等 ..... 4月3日~5日
- 入学式 ..... 4月5日
- 進路セミナー（第1回）（講演） ..... 4月5日午後  
(3・4年生)
- 前期授業 ..... 4月6日~7月28日
- 健康診断 ..... 4月14日午前
- 新入生オリエンテーション ..... 4月14日午後
- 交通安全講習会 ..... 4月27日午前
- 進路セミナー（第2回）（職業紹介） ..... 4月27日午後  
(3・4年生)
- 内科健診 ..... 5月20日午後・27日午後
- ホームカミングデー ..... 6月17日
- 開学記念日 ..... 6月20日
- 前期試験 ..... 7月31日~8月4日
- 夏季休業日 ..... 8月9日~9月30日  
(助産学専攻科の夏季休業日 ..... 8月7日~8月25日)
- 第1回オープンキャンパス ..... 8月16日~8月18日、21日

- 大学院入試  
(一般入試・社会人特別選抜入試) ..... 9月9日
- 後期授業 ..... 10月1日~2月2日
- 防災授業・防火訓練 ..... 10月20日 2時限
- 学生祭「EPU Festival」 ..... 10月21日~22日
- 第2回オープンキャンパス ..... 10月21日~22日
- 学部 学校推薦型選抜入試 ..... 11月18日
- 学部 社会人特別選抜入試 ..... 11月18日
- 助産学専攻科入試  
(本学卒・県内卒・一般卒) ..... 11月19日
- 冬季休業日 ..... 12月27日~1月3日
- 大学入学共通テスト ..... 1月13日~14日
- 後期試験 ..... 2月5日~9日
- 学部 一般選抜入試(前期日程) ..... 2月25日~26日
- 学部 私費外国人留学生特別選抜入試 ..... 2月25日
- 学部 一般選抜入試(後期日程) ..... 3月12日
- 卒業式・修了式 ..... 3月19日
- 春季休業日 ..... 3月21日~

日程など詳細は大学ホームページをご参照ください。 <https://www.epu.ac.jp/campus/calendar/index.html>

### 広報誌「砥礪(しれい)」についての意味

『砥礪(しれい)』とは、「①砥石(といし)②とぎみがくこと」とあり、さらに「学問、修養などを高めようと努力すること【大辞泉：小学館】」などの意味があります。平成16年に大学が開学して1年経った平成17年に、本学の位置する砥部町にちなむとともに、大学広報誌の名称としてふさわしいということで多くの賛同を得て決定された経緯があります。

## 公立大学法人 愛媛県立医療技術大学

〒791-2101 愛媛県伊予郡砥部町高尾田543番地  
TEL 089-958-2111 FAX 089-958-2177  
ホームページ <https://www.epu.ac.jp/>



### 編集後記

新型コロナウイルスが蔓延した約3年間、様々な活動が制限されてきました。医療系大学である本学では、特に臨地での実習の前、より厳しい行動制限が必要とされました。しかしそのなかでも、学部生は感染対策を徹底し、学びの機会を失わないよう努力して参りました。

砥礪19号では、そのような学部生にスポットライトを当て、大学生活の内容の記事を増やしました。「学部生による講義・実習紹介」のページでは、在校生に学内実習内容について紹介してもらい、写真を多く盛り込んでいます。直接見ていただくことの難しい学内実習・演習の様子が、少しでも皆様に伝われば幸いです。

また、全国でも珍しい臨床検査技師会と大学との連携が、令和4年度から開始されました。技師会主催のイベント等に参加した学生からの感想も掲載しています。

最後になりましたが、お忙しいなか、原稿をお寄せいただきました皆様に、心から感謝申し上げます。

広報委員会一同